

首相・閣僚らの靖国神社参拝に抗議する声明

私たちは、生と死の全領域の主であり、歴史を支配したもうイエス・キリストの父なる神を信じる群である。教派成立以来政治と宗教の癒着および政治権力の宗教への介入に反対し、政教分離の原則と信教の自由を勝ち取ってきた歴史を継承する私たちは、次のように声明する。

私たちは、敗戦後40年を迎えた8月15日に、中曽根首相とそれに従う閣僚らが「公式」と称して靖国神社に参拝したことに対し、強い怒りを持って抗議する。

靖国神社は、1869年明治天皇によって創建された神社であり、戦前は国家神道の重要な柱として陸・海軍省の管轄により天皇のために戦死したとされた者のみを祀り、天皇の名による戦争遂行のための国の重要な施設であった。敗戦後は「神道指令」によって国家神道が禁止され、靖国神社は自らの手で宗教法人となった。

この宗教法人靖国神社に、中曽根首相と閣僚らが参拝し、玉ぐし料にかわる供花料を公金より支出した行為は、如何なる言辭を弄しても、明らかに憲法第20条の「信教の自由」、および第89条の「公の財産の支出または利用の制限」に違反することは明白である。

中曽根首相、および閣僚らが公務員の長として、憲法第99条「憲法尊重擁護の義務」を遵守すべきであるにもかかわらず、多くの反対を無視して、白昼公然と憲法をないがしろにする暴挙に出たことは、国民を愚弄するものであって許し難い。

憲法解釈をねじ曲げ、宗教に介入し、支配しようとする行為は、「神社は宗教に非ず」として、軍国主義国家と国家神道を癒着させ、わが国を戦争へと追いやり、敗戦へと導いたかつての在り方と軌を一にするものである。

靖国神社には東条英機ら太平洋戦争のA級戦犯が合祀されている。靖国神社はかつての侵略戦争の精神的支柱としての役割を持ち、天皇の名によって多くのアジアの人々を殺した者たちを「英霊」として美化し、神とした神社である。もし今後、天皇が「公式」と称して靖国神社に参拝することがあれば、アジアをはじめとする諸国から戦争責任者としての追及の声は免れ得ないであろうし、われわれも「見張り人」として沈黙しているわけにはいかない。

政府が来春の東京サミットの際にレーガン大統領らの靖国神社「公式」参拝を要請するならば、私たちはその実現を阻むためにあらゆる努力を惜しまないことを宣言する。もしレーガン大統領らが靖国神社に参拝するとすれば、東京裁判に於いて自国が裁いたA級戦犯を祭神とし祀っている神社にその国の元首が参拝することになり、大きな矛盾をもたらすことになる。

かつて天皇制イデオロギーと、国家神道の持つ重大な問題性を批判し得ず、擬似神の前に沈黙

し、膝をかがめてきた歴史を持つ私たちは、深い痛みを持つと共に、再びこの過ちを繰り返してはならないと1967年以来、靖国神社国家護持の動きに反対し取り組んできた。

私たちは、首相・閣僚らの靖国神社参拝が繰り返されないことを強く要請し、今後も信教の自由を守る戦いを続けることをここに宣言する。

1985年8月23日

日本バプテスト連盟第39回年次総会